

学び合い高め合い意欲的に学ぶ児童の育成

～言語活動の充実を通して～

I 研究の具体的内容

1 教科等の特質を生かした言語活動を充実させた授業づくり

(1) 提案授業及び学習会

第5学年国語「詩を楽しもう」 授業者 井上 まり子 教頭

(2) 研究授業及び研究会

第5学年算数「合同な図形」 授業者 大原 純子 教諭

助言者 山梨県義務教育課 指導主事 齊藤 功 先生

(3) 実践授業及び振り返り

第1学年 国語「はっ見カードをつくって、おうちの人にしらせよう」

授業者 青木 恵 教諭

第2学年 国語「音読げきをしよう」 授業者 大村 えり 教諭

第3学年 国語「修飾語」 授業者 野澤 明雄 教諭

第4学年 算数「広さを調べよう」 授業者 小石澤 淳子 教諭

第6学年 算数「比例をくわしく調べよう」 授業者 清水 誠治 教諭

ひまわり学級 第3学年算数「大きな数のわり算」

授業者 滝島 正彦 教諭

2 意欲的に学ぶ学習集団づくり

(1) 学習規律の確立

- ・「学習のきまり」の作成
- ・学習規律に関するアンケートの実施と分析

(2) Q・U調査の分析と対策

- ・学級育成プログラムの作成

3 学びの基盤となる学習環境づくり

(1) 家庭学習の習慣化

- ・家庭学習に関するアンケートの実施と分析

II まとめ（成果と課題）

1 授業づくりに関わって

各教科の授業の中に「考える場」と「伝え合う場」を設定し、言語活動の充実を図る中で、思考力や表現力の向上を目指してきた。特に今年度は、自分の思いや考えを自分の言葉で表現したり、お互いの考えを尊重しながら聴き合い、より良いものを創り出していったりできる授業づくりをねらいとして、全教員が授業を公開し合ってきた。授業後の振り返りでは、児童の学びがどこにあったか、どこでつまづいたか、どこに可能性があったか、児童観察をもとに意見を出し合い、教員同士の学び合いも大

切にしてきた。

その結果、子ども自身が意識して発言のレベルを上げていこうとする姿勢が見られたり、人前で話すのが苦手だった児童も話すことに抵抗がなくなったりするなど、児童の変容を感じることができた。その一方で、「伝え合う場」が思考を深める場に十分になっていないのではないか、という課題も残された。今後、さらに学び合いの質を高めていくために、児童の実態や目指す子どもの姿を明確にして、目の前の子どもに合わせた言語活動の工夫を行っていききたい。また、小規模校の良さを生かし言語活動を全校行事の場へと広げたり、Q-Uの結果を踏まえた学習形態の工夫を考えたりしていきたい。

2 学習集団づくりに関わって

Q-Uアンケートを2回実施しクロス集計を分析して、子ども理解を進め、その都度課題を持つ子に適切な関わりを持つように努めてきた。また、昨年度つくった「大和小学習のきまり」の項目を、子どもたちが意識化できるように精選して6項目に絞り込み、改訂して取り組んできた。

Q-Uアンケートでは、各クラスの子どもの姿がいつそう浮き彫りになり、見つかった課題に早急に対処することができ、よりよい学習集団をつくることができた。今後、成長に寄り添って指導するために、Q-Uの結果を引き継いでいくことが大切である。

学習規律の確立では、児童と教員によるアンケート結果から、「ていねいに字を書く」「先生や友だちの話をしっかり聞く」項目が十分に定着していない実態が明らかになった。「ていねいに字を書く」については、低学年から継続して指導していくことが必要であることが確認された。また、ノート指導の重要性も再認識され、「読み返して使うことの有効性を知らせ、自分のノートを楽しめるように指導したらどうだろうか。」「色ペンなどでポイントをわかりやすくしたノートをつくらせ、家庭学習の復習で役立たせたらどうだろうか。」などの工夫も出され、全学年で見やすいノート指導をしていくことが課題とされた。「先生や友達の話をしっかり聞く」については、子どもたちに「聴くこと」の重要性を意識づけ、繰り返し指導していくことが大切であるということが確認された。

3 学習環境づくりに関わって

今年度、初めて家庭学習についてアンケート調査をすることで、子どもたちの家庭学習に関する実態や保護者の実態が把握できた。また、アンケート結果をまとめ、学年部会で保護者への啓蒙資料として提示することができた。さらに、アンケート調査を2回実施したことで、児童の変容が分かり、日々の指導に役立てることができた。

このアンケート調査による実態から家庭学習はどうあるべきか共通理解が図られたが、保護者への家庭学習の働きかけや自主学習の内容、子どもの個人差への対応など、次年度以降、さらに研究を深めていく必要がある。また、子どもの家庭環境は一人ひとり違うのでその点を考慮すること、復習としての宿題と自主学習の比率も考えていくことも必要である。

III 成果物

研究授業、実践授業の授業案（ワークシート等も含む）

（研究主任 青木 恵）